

## 【レポートタイトル（必須）】

このほかに、講義名、担当教員名、学籍番号、氏名等を記載する必要があります。

# 鶴見俊輔の思想について

〇〇〇〇（氏名）

## 1. はじめに

鶴見俊輔は、戦後日本を代表する民主的な思想家の一人である。丸山眞男、武田清子らとともに、雑誌『思想の科学』を創刊した。鶴見をはじめとする編者は、「敗戦からより多くを学ぶこと」を目的に掲げ、「公園の片隅の砂場」のような雑誌をめざしていた。本レポートでは、その哲学的な洞察から漫画などのサブカルチャーに至るまでの多岐にわたる思想の全体図を俯瞰してみたい。

【レポートの問題、目的を提示】  
レポートの問題設定（何がテーマなのか）、目的（書き手は何を伝えたいのか）を明確にします。

## 2. 鶴見俊輔の思想

鶴見俊輔の著作は、おおまかに以下のようなものである<sup>(1)</sup>。プラグマティズムをはじめとするアメリカ哲学、デューイの思想についての著作、柳田国男、柳宗悦をはじめ、中野重治、花田清輝といったプロレタリア作家たちについての文章、記号論をもとにマルクス主義や日本文化、ひいては天皇制を問題化したもの、いわゆる「転向」をめぐる思索をあらわした。日本のアジア侵略を問題化し、声なき声の会、ベトナムに平和を！市民連合（通称：ベ平連）を結成し、九条の会でも活動している。また、上記のような哲学的考察とともに、漫画の読み手としても知られており、雑誌媒体としての『ガロ』、あるいは「明日のジョー」「サザエさん」といった昭和の名作をはじめ、「風の谷のナウシカ」や「ちびまる子ちゃん」、「おぼっちゃまくん」への言及もみられる。こうしたスタンスは、「日本の知識人」が「庶民」に対して「近代化」を説く、といった啓蒙的な態度を批判する鶴見の姿勢とも通底するものであり、大衆の目線に立つようとした彼のあり方をよく表している。

## 3. 鶴見の及ぼした影響

こうした鶴見の思考は、『思想の科学』の同人、執筆陣を中心として、大きな影響を及ぼしていった。横尾夏織は、『思想の科学』の編集方針に現れていた「多元主義」をめぐって、「互いに異なる思想・立場を認め合うという一般的な意味から一歩進んで、むしろ積極的にそれらをつぶつち合うことにより個人の思想の深化と組織の民主性の確保を狙った」と指摘している<sup>(2)</sup>。また、木村倫幸は、「近代国家権力の抑圧に抵抗する立場を堅持しながらも、いわゆる反権力的立場を取る「正統的」左翼・マルクス主義の立場とは一線を画し、生活世界の中での「私的な根」を根拠にした発言と行動によつての運動」であったと評価している<sup>(3)</sup>。こうしたラディカルなほどの民主的な姿勢は、今日でもまったく変わっていない<sup>(4)</sup>。

【引用①】文中に引用する場合は、「」でくくる。引用文は改変してはいけません。一字一句そのまま引用。

【まとめ】ここでは新しいことを論じる必要はありません。本論で論述した内容を、文字通りまとめ、読み手に分かりやすく伝える箇所です。要約力が問われます。

【自分の意見】先行研究や資料を引用した上で、自分の言葉で意見、主張を加えます。

#### 4. まとめ

以上、鶴見俊輔の思想は、大衆目線、普通の人を意識したものであったことがわかる。天皇制という擬制に象徴される日本＝国体思想に対する批判と、同時にまた、「正統的」左翼・マルクス主義の立場にも組しない彼のラディカルな姿勢に現れているように、そのプラグマティズムに基づく原理的な思考こそが、戦後民主主義の中道というべきものを体現していると言えるだろう。

こうした鶴見の姿勢に学び、学問をエリートの特権化されたものとしてではなく、生活世界に「私的な根」を下すことによって、つねに大衆の目線で思考し、語る姿勢を実践していきたい。

#### 【参考文献】

- (1) 『鶴見俊輔集・全一二巻』（筑摩書房、1991.4～）をもとにした。
- (2) 横尾夏織 「『思想の科学』における多元主義の展開と大衆へのアプローチ」、『早稲田大学社会科学部創設40周年記念 学生論文集』（早稲田大学社会科学学会、2006年11月）
- (3) 木村倫幸 「鶴見俊輔と哲学思想・言語の改造」、季報『唯物論研究』第127号（季報『唯物論研究』刊行会、2014年5月）
- (4) 2014年7月、NHK Eテレ戦後史証言プロジェクト「日本人は何をめざしてきたのか」の第二回で鶴見俊輔について取り上げられており、「思想の自由は批判の自由を基礎としている」「真理は間違いから先導される」など、いまだ衰えることを知らない鶴見の言葉に触れることができた。

【参考文献】これがなければレポートではありません。「参考文献」、「引用文献」、もしくは註記事項とあわせて、「註および文献」と表記します。  
書き方の形式は講義ごとに指定されることもあるので、事前によく聞いておきましょう。